

フラッシュとクラウドでデータ保護を近代化

ObjectEngine と FlashBlade が可能にする新しいデータ保護

概要

ピュア・ストレージの ObjectEngine™ は、フラッシュとクラウドの利点を活かすことでデータ保護を近代化するソリューションです。ObjectEngine は、業界初の「フラッシュ→フラッシュ→クラウド (F2F2C)」プラットフォームです。従来の「ディスク→ディスク→テープ (D2D2T)」アーキテクチャとは大きく異なり、高速リカバリやクラウド利用によるコスト削減を実現するほか、分析、AI、コンプライアンス用途など、バックアップ以外のワークロードやビジネスに必要なデータの再利用を可能にします。

「フラッシュ→フラッシュ→クラウド」：

ObjectEngine と FlashBlade による新たなアプローチ

FlashArray™ 上で Oracle のような基幹アプリケーションを実行し、それらのアプリケーションを FlashBlade™ にバックアップすることで、ハイブリッドクラウドと F2F2C の両方の利点を享受できます。FlashBlade™ へのバックアップには、ネイティブユーティリティを直接使用する方法、あるいは、Veritas、Commvault、Veeam などのサードパーティによるデータ保護ソリューションを使用する方法があります。ObjectEngine は、クラウドネイティブのソフトウェアアーキテクチャにより構築されています。オンプレミスの FlashBlade、または Amazon Web Services (AWS) などのパブリッククラウドの利用により、ストレージのフットプリントを低減します。



高速リカバリ

データインジェストレート: 最大 25 TB/時
データリストアレート: 最大 15 TB/時*



コスト削減

パブリッククラウドにデータをバックアップすることでクラウドの経済性と永続性を活用



データ再利用

複数のクラウド間での単一のグローバル名前空間により、全てのデータにアクセス可能

「ディスク→ディスク→テープ」の問題点

依然として広く使用されている従来の D2D2T アーキテクチャでは、バックアップ性能の最適化は行われてきましたが、SLA 達成のための本来の目的であるリカバリ速度についてはほとんど考慮されていませんでした。テープの利用によりコンプライアンスの課題は軽減されるかもしれませんが、しかし、テープ上にバックアップされたデータは、その潜在的な価値を眠らせたまま保管するだけになりがちです。

* データ削減率は 10 : 1 を想定していますが、ワークロードによって異なる場合があります。

優れたバックアップ性能と高速リストアの両方を実現

バックアップ専用アプライアンス（PBBA）のバックアップ性能や重複排除に関する資料の入手が容易な一方で、リストア性能に関する情報はなかなか見つかりません。それには理由があります。PBBA はバックアップ性能とストレージの効率性を念頭に最適化されています。しかし、リストアについては、バックアップのおよそ 10 倍もの時間がかかるため、最適化の対象になっていないのです。また、PBBA を導入している場合には、将来に備えた容量の事前購入や、ハードウェアのライフサイクル終了に伴う買い替えを余儀なくされます。また、コンプライアンスの目的で類似のインフラストラクチャをオフサイトにレプリケートすることも珍しくありません。このようなことが、インフラストラクチャの構築や管理、メンテナンスのコストを増大させます。F2F2C アーキテクチャは、これらの負担を軽減しながら高速リカバリを実現し、データの新たな利活用を可能にします。

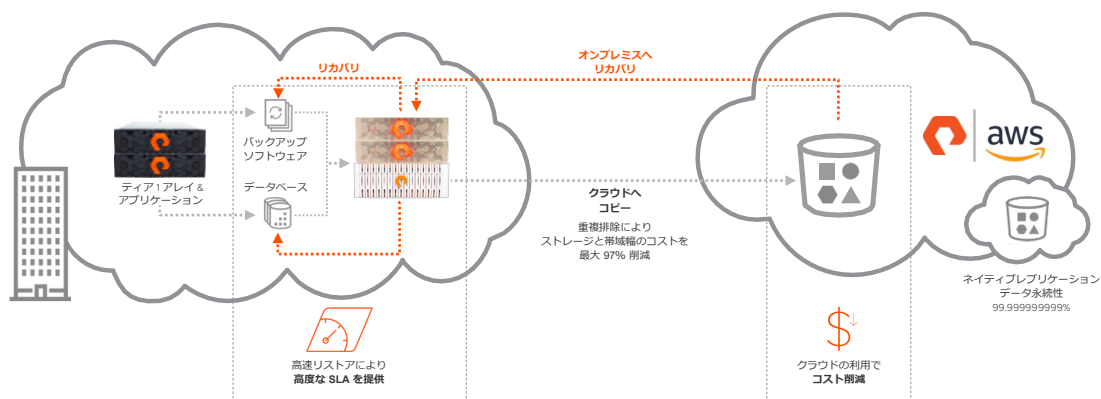
ティア1テレコムにおける導入事例

課題： IDT 社は、1 PB にもおよぶオンプレミスのデータを保持しており、PBBA システムにかかる高額なメンテナンスコストの削減が必要でした。クラウドの利用も検討しましたが、オンプレミスの Veritas NetBackup や Oracle のネイティブユーティリティなど、既存のアプリケーションと連携するソリューションを導入したいと考えていました。



ソリューション： 複数のソリューションを評価した結果、ピュア・ストレージの ObjectEngine を選択しました。ObjectEngine は当初 StorReduce という名称でしたが、ピュア・ストレージによる 2018 年の StorReduce 社買収を機に名称が変更されました。ObjectEngine は、IDT 社が使用していた既存のバックアップアプリケーションとシームレスに連携します。さらに、AWS クラウドへの直接バックアップをサポートしており、クラウドの経済性も獲得できます。

効果： ObjectEngine の導入による主な効果として、IDT 社では、データ量の変動に迅速に対応し、かつ、重複排除によってストレージ容量を最適化できるようになりました。また、TCO を 80%削減することに成功し、バックアップデータを隔離環境で管理するというコンプライアンス要件も満たすことができました。



ObjectEngine でデータ保護を近代化

今日の企業が必要とするデータ保護は、単なるバックアップだけでは不十分です。重要なデータを必要な場所に迅速にリストア可能で、厳しい SLA を達成する必要があります。従来の D2D2T アーキテクチャでは、主要なアプリケーションのリカバリや、データの新たなユースケースへの活用といった用途には対応できません。それとは対照的に、ピュア・ストレージの ObjectEngine が提供する F2F2C アーキテクチャは、データ保護の近代化を実現し、お客様のイノベーション創出を支援します。

詳細は PURESTORAGE.COM をご覧ください。